

# 牧草と園藝

第十七卷・第二号

昭和二十八年五月十五日第三種郵便物認可  
昭和四十四年二月一日(毎月二回二日発行)

夕張郡長沼町字幌内一〇六  
雪印種苗株式会社  
中央研究所



雪印種苗株式会社

# オーチャードグラス品種の使い分け

品 種 名	主 な 特 性	用 途		早 晩 性		
		採草地	放牧地	早生	中生	晩生
北海道在来種 フロード ヘイキング ポトマック	出穂早く再生も旺盛。寒冷地に適する。 茎数多く、多葉性で再生も良好。 草丈高く、葉は大きく多葉で1番草が多収。 早生品種で再生良好。暖地に適する。	○ ○ ○ ○		○	○	○
フィロックス マッハーデー	草質やわらかく、株の形成が小さい。 再生すぐれ永続性良く、株形成小さい。		○ ○		○	○

オーチャードグラスは採草地・放牧地いずれにも利用されていますが、品種改良の研究がすすみ、特性のちがった新品種が次々と発表されるようになり、それぞれ用途別に有効に使い分けできます。

## 採草型品種

早生種と晩生種では出穂期が約10日ちがいます。草地面積の拡大にしたがい、収穫時の労力集中が問題となっていますが早・中・晩品種の使い分けによって、労力分散をはかることができます。つまり赤クローバ、チモシー、メドウフェスクなど他草種の早・中・晩品種と組み合わせ早期刈区、中期刈区、晩期刈区の3段階を設置することです。

## 放牧型品種

春から秋まで生育よく再生旺盛なこと、草質やわらかく家畜嗜好性すぐれていること、株は大きくならないこと等が放牧型品種の必要条件になります。フィロックス・マッハーデーはこれらの条件を備えており、欧米諸国においても放牧地に利用されています。

フィロックスは肥沃地向きで多肥栽培に適しますから、比較的集約的な草地管理が必要であり、一方マッハーデーは吸肥性強く、耐寒性もやや強い特性を有しています。



オーチャードグラス 生草収量比較成績 (上野幌育種場昭和39~41)

	出穂始	1 年 目		2 年 目					3 年 目					1 ~ 3 年 目	
		I	同左比率	I	II	III	計	同左比率	I	II	III	計	同左比率	合計	同左比率
北海道在来種	6. 5	2,560	100	2,270	1,150	600	4,020	100	2,360	1,360	1,380	5,100	100	11,680	100
ヘイキング	6. 15	2,600	102	2,680	1,140	690	4,510	112	2,340	1,160	1,590	5,090	100	12,200	104
フィロックス	6. 9	2,520	98	1,690	1,420	760	3,870	96	1,880	1,680	1,630	5,190	102	11,580	99
(フロード)	(6.9)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	(99)

備考 (1)生草収量10アール当りkgを示す。

(2)フロードは他の試験成績より引用。